

野村直樹講師によるベイトソンセミナー 『精神と自然』(1979)より「誰もが学校で習うこと」

このワークショップは、名古屋市立大学の野村直樹氏を講師とし、セミナー形式でベイトソンについて学び語り合うものです。有名なダブルバインド理論で知られるグレゴリー・ベイトソンは、文化人類学者であり、研究領域は精神医学、コミュニケーション理論、生物学、進化論、認識論、エコロジーにまで及び、20世紀を代表する思索・思想家です。

今回のセミナーは、ベイトソンが晩年にその思索をまとめた著作『精神と自然』から、第Ⅱ章「誰もが学校で習うこと」を取り上げます。生物的・社会的事象を理解するための前提として、本来誰もが知っておくべきことというちよっぴり皮肉を込められてつけられた「誰もが学校で習うこと」には、ベイトソンの認識論において前提となる16の「シンプルな真実」が挙げられています。論文よりも分かりやすい題材をもとにいくつかの部分に分けて取り上げ、参加者の理解が進むように、ベイトソンの世界観との対話を重ねていきます。また、その認識論の展開として「オープンダイアログ」の形式も採用する予定です。

ベイトソンは大事だと分かっている、難しく一人では勉強しにくいもの。ぜひこの機会に語り学び合い、一緒にベイトソンの世界を体験してみませんか？

☆講師からのコメント

「今回、『精神の生態学』ではなく、『精神と自然』を取り上げた背景に、チャールズ・サンダース・パースの記号論への着目があります。パースの記号論とベイトソンのコミュニケーション理論の間には、不思議な親和性があるように感じます。「動く言語」で語られる『精神の生態学』と比べ、『精神と自然』のほうは、ベイトソンの遺作ということもあってか、言葉がいくぶん断定的で止まっています。その止まっている言語の良い点に目を向けることで記号論への橋渡しの可能性になるように思われます。」



◇講師：野村直樹(名古屋市立大学)

主な著書：『やさしいベイトソン』『みんなのベイトソン』(金剛出版)

『ナラティブ・時間・コミュニケーション』『協働するナラティブ』(遠見書房) など

◇日時：2017年9月17日(日) 10:00~18:00

◇会場：板橋文化会館 第2練習室 <http://www.itabun.com/>

(東武東上線大山駅徒歩3分または都営三田線板橋区役所前駅徒歩7分) 定員：25名程度

◇参加費：8000円 (お申し込み時に振込み口座をお知らせいたします)

◇参加資格：ベイトソンやナラティブ、オープンダイアログに興味があること

◇お申込み方法：下記メールアドレスに、氏名、所属、職種などを明記の上、お申込み下さい

shinrigijyutukenkyukai115@yahoo.co.jp



*1:なるべく『精神と自然』(新思索社)の第Ⅱ章「誰もが学校で習うこと」(改定版p31~87)をお読みの上、ご参加ください。

*2:どうしても書籍が入手できない場合は、メールにてご相談ください。

*3:ワークショップ終了後に、講師を囲んでの懇親会を予定しております。宜しければご参加ください。



☆セミナーの内容など野村先生に直接お尋ねしたいことがありましたら、下記アドレスまでご連絡ください

nomura@hum.nagoya-cu.ac.jp